

おとなの方へ —鑑賞の目を養うために—

絵巻物について

巻物とは、書画や文章などを書いた横長の紙を表装して、軸に巻いたものです。

特に巻物にかいた絵画作品のうち、主に詞書（文章）とそれに対応する絵とが交互に配列されているものを絵巻と呼びます。詞書がほとんどなかったり、まったくない場合は、“画卷”や“図巻”とも書きます。巻く形状にすることで、たくさんの情報を掲載していても、コンパクトに収納することができます。

見る際は、一気に全部を広げるのではなく、自分の肩幅くらいに広げ、右から左へ少しずつずらしながら見ていきます。そのため、巻物に描かれた物語は、右から左へお話が展開します。オリジナル作品をつくるときの参考にしてください。



〔観察しよう〕の目的

妖怪を図巻台紙に並べる前に、じっくり観察してみませんか。歩いているのか、走っているのか。どこを見ているのか。何をしているところなのか。動きに注目すると、近くに並べるとよさそうな妖怪が見つかるかもしれません。妖怪たちは、動物に似たもの、暮らしの道具に似たもの、鬼や人の形をしているものなど、姿かたちも様々です。家族かな？友達かな？観察することで、想像の世界がどんどん広がるはずです。

対話型鑑賞のねらい

対話型鑑賞は、自分でよく見て考えることや、人の意見から別の見方に気づくことを大切にした鑑賞方法です。

おとなの方は、正しく絵の解説をすることよりも、子どもたちの発見や興味に従って対話を楽しむことを大切にしてください。子どもたちが自分の考えを相手に伝えたり、人の話を聞いて視野が広がる経験を通じて、対話や鑑賞を「楽しい！」と思えることが重要です。